

2024年5月7日

2024年3月期 決算説明資料

東証プライム・名証プレミア 証券コード：2053
 ホームページ <https://www.chubushiryo.co.jp/>
 お問い合わせ先 TEL: 052-204-3050 総務人事部 総務課

目次

24.3期 決算レビュー

- ◆ 連結業績
 - ◇ 連結経営成績 5
 - ◇ 連結財政状態 6
- ◆ 飼料セグメントの状況
 - ◇ 外部環境① 8
 - ◇ 外部環境② 9
 - ◇ 営業利益の増減要因 1 0
 - ◇ 畜産飼料の動向 1 1
 - ◇ 差別化飼料比率及び環境に配慮した飼料の販売状況 1 2
 - ◇ 原料ポジションの状況 1 3
 - ◇ エネルギー価格及び基金負担金の状況 1 4
 - ◇ 水産飼料の実績 1 5
- ◆ その他セグメントの状況
 - ◇ その他セグメントの実績 1 7

中期経営計画2024

- ◆ 1. 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について
 - ◇ 現状評価① 2 0
 - ◇ 現状評価② 2 1
 - ◇ 現状評価③ 2 2
 - ◇ 方針・目標 2 3
 - ◇ 具体的な取組み 2 4
 - ◇ 補足資料① ROICを用いた経営管理 2 5
 - ◇ 補足資料② 株主還元の見直し 2 6
 - ◇ 補足資料③ 財務戦略の枠組み 2 7
- ◆ 2. 中期経営計画2024の目的・位置づけ
 - ◇ 中期経営計画2024の目的と位置づけ 2 9

- ◆ 3. 中期経営計画2024の計画値と内容
 - ◇ 中期経営計画2024の定量計画 3 1
 - ◇ 中期経営計画2024 初年度 (25.3期) 営業利益の増減要因 3 2
 - ◇ 基本戦略 3 3
 - ◇ 基本戦略1：飼料セグメントの収益力向上と規模拡大 3 4
 - ◇ 基本戦略2：その他セグメントの事業成長の加速 3 5
 - ◇ 基本戦略3：サステナビリティ経営の推進 3 6
- ◆ 4. 株主還元方針
 - ◇ 株主還元方針 3 8

参考資料

- ◇ 用語集 4 0

24.3期 決算レビュー

連結業績

(単位：百万円)

	23.3 実	24.3 計 (4/19修正)	24.3 実	計画比	前期比
売上高	243,476	234,000	234,227	227	△ 9,249
飼料	229,707	-	218,889	-	△ 10,818
その他※1	13,768	-	15,337	-	1,568
営業利益	1,670	3,900	3,932	32	2,262
経常利益	2,069	4,400	4,464	64	2,394
セグメント利益※2	1,085	-	4,487	-	3,402
飼料	463	-	4,301	-	3,837
その他※1	960	-	821	-	△ 138
調整額※3	△ 338	-	△ 635	-	△ 296
当期純利益	827	3,300	3,327	27	2,499
設備投資額	3,437	-	4,098	-	661
減価償却費	3,021	-	2,935	-	△ 85

売上高

◇ 畜産飼料の平均販売価格下落、みらい飼料の連結除外により減収

セグメント利益

◇ 原料ポジションの大幅な改善により増益
 ◇ 減益
 詳細は17頁で説明
 ◇ 全社費用の増加により悪化

- ※1.その他セグメント：鶏卵販売・肥料・畜産用機器・保険代理業等
 2.セグメント利益：税金等調整前当期純利益
 3.調整額：各報告セグメントに配分していない全社費用、金融収支を含む

5

連結財政状態

24.3期 要約連結貸借対照表

(単位：億円)

流動資産	695 (+29)	負債	381 (+19)
現預金	30 (+10)	買掛金	212 (+35)
売上債権	460 (+14)	有利子負債	76 (△47)
たな卸資産	136 (△36)		
		純資産	656 (+42)
		株主資本	622 (+23)
		その他包括利益	33 (+20)
		非支配株主持分	0 (△1)
流動比率	234.5 % (+4.0pt)		
固定資産	342 (+32)		
有形	247 (+0)		
無形	4 (△0)		
投資その他	91 (+32)		
		自己資本比率	63.2% (+0.5pt)
資産合計	1,038 (+62)	負債・純資産合計	1,038 (+62)

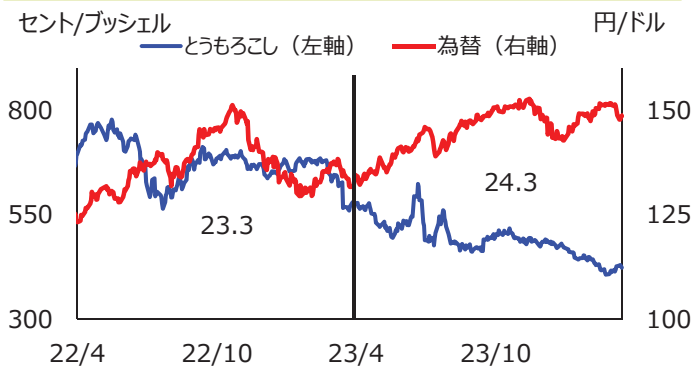
※ () 内の数値は、23.3期末との比較

6

飼料セグメントの状況

外部環境①

とうもろこしシカゴ相場と為替相場の推移



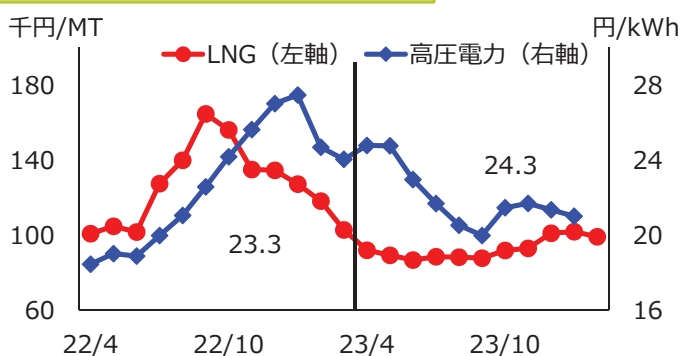
◇ とうもろこし

- 22年5月をピークに相場安が進んでいる

◇ 為替

- 22年4月より円安が進んでいる
- 一時円高傾向に戻したものの23年2月を底に再び円安が進んでいる

エネルギー単価の推移



◇ LNG

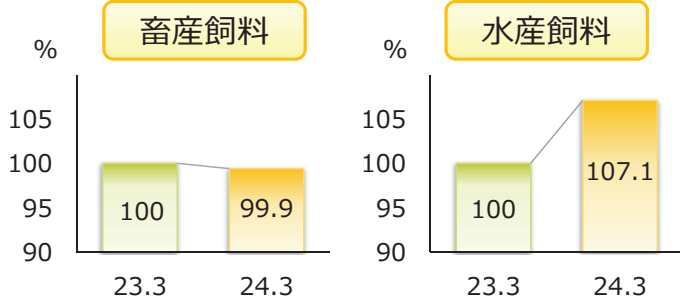
- 前期と比べて安定的かつ低位で推移

◇ 高圧電力

- 前期と今期の平均単価は同水準
- 補助金により実質価格は下落

※LNG：財務省貿易統計。高圧電力：電力・ガス取引監視等委員会

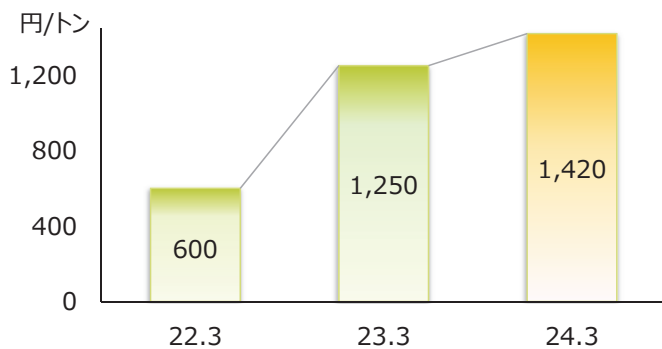
飼料の市場流通量



※1. 畜産飼料は4-2月の市場流通量（飼料月報）
 ※2. 水産飼料は4-3月における日本養魚協会に属するメーカーの合計

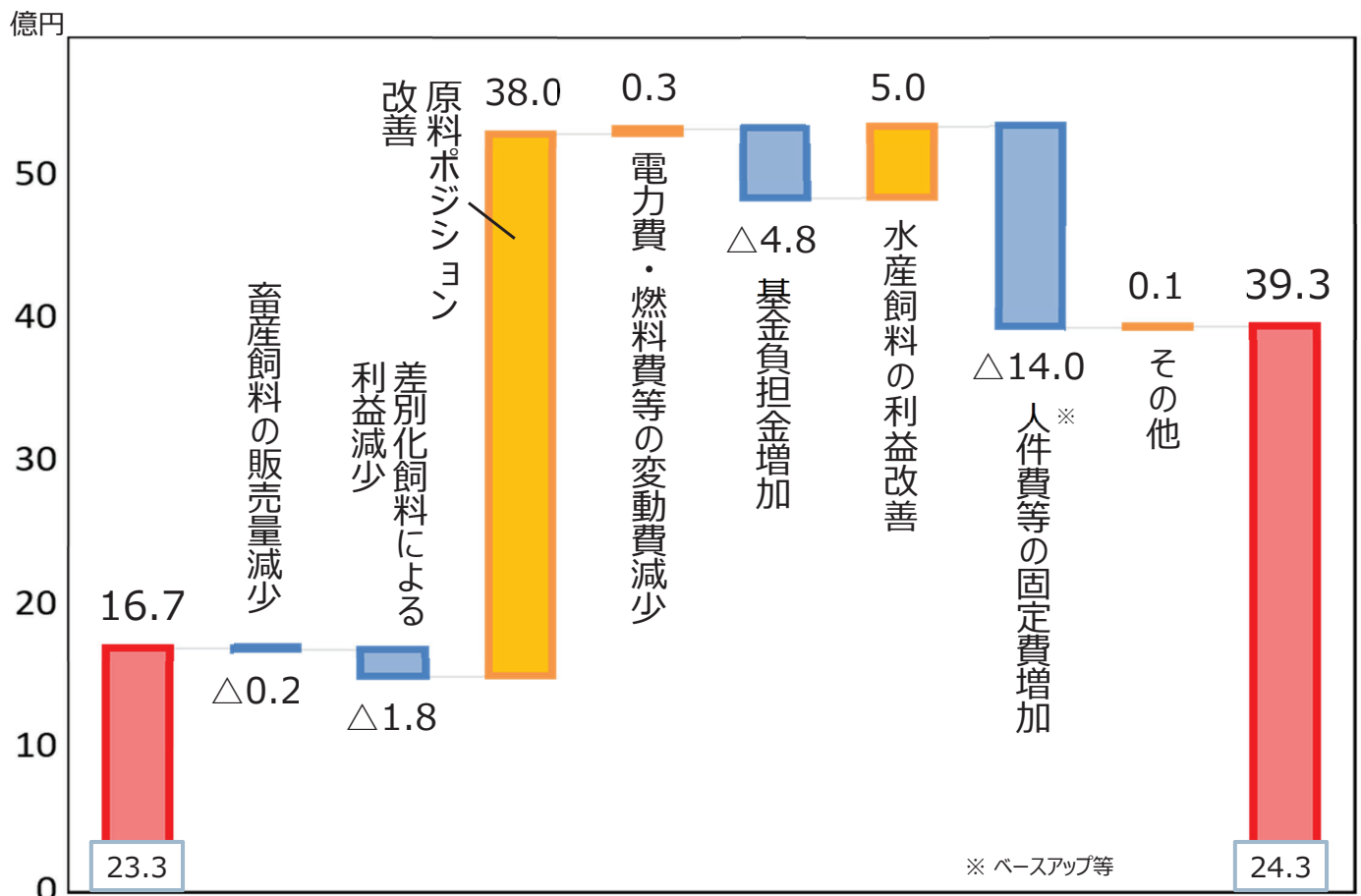
- ◇ 畜産飼料は鳥インフルエンザの影響で採卵鶏用飼料が減少したものの、養豚用及び養牛用飼料が増加し、ほぼ横ばい
- ◇ 水産飼料はハマチ用飼料がけん引し前期より大幅に増加

基金負担金単価の推移

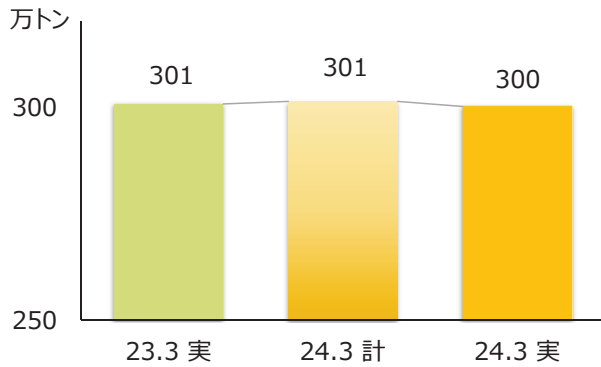


- ◇ 高額な補てん金の交付が続いたことから積立金単価は右肩上がり
- ◇ 24.3期は170円/トンの負担増加

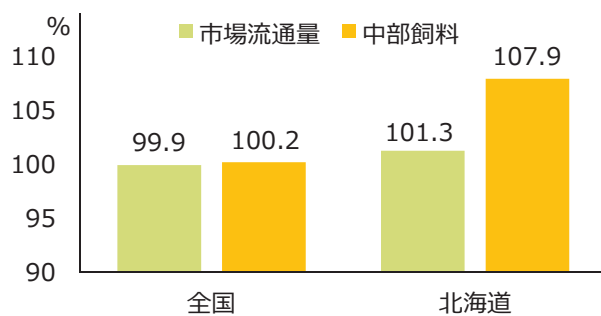
営業利益の増減要因



㊦ 畜産飼料販売量



市場流通量及び㊦販売量 前期比



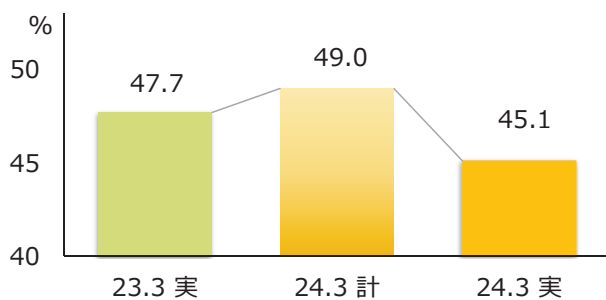
※ 1. 4-2月の数量による比較
 2. 市場流通量は飼料月報速報値より集計

- ◇ 前期・計画に対してほぼ横ばい
 - 養牛用、養豚用飼料は取組が評価され堅調に推移
 - 採卵鶏用飼料は鳥インフルエンザの影響を受けたものの、前期を上回る
 - ブロイラー用飼料は競争激化の影響により大きく数量を落とす
 - 戦略地域の北海道では養豚用飼料及び養牛用飼料がけん引し、市場の伸びを大幅に上回る

利益が0.2億円減少

差別化飼料比率及び環境に配慮した飼料の販売状況

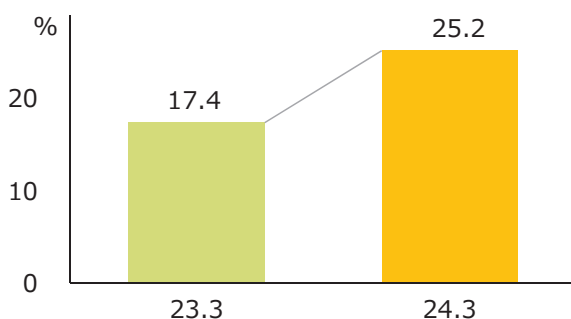
差別化飼料の売上高構成比



- ◇ 前期、計画ともに下回る
 - 飼料価格の高騰により価格志向が高まり差別化飼料の価値訴求が出来ず、汎用化が進展
 - ブロイラー用の差別化飼料の販売量減少もあり、比率が低下

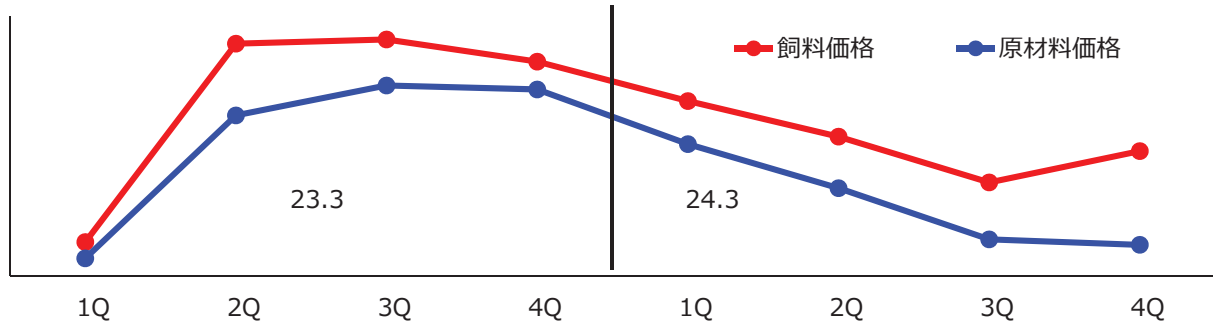
利益が1.8億円減少

差別化飼料売上高における畜産環境に配慮した銘柄の構成比



- ◇ 前期と比べ7.8ポイント上昇
 - 養鶏用飼料において、窒素の排出を抑制する飼料の拡販
 - 豚が食べやすい形状の養豚用飼料の拡販

㊤ 配合飼料価格と原材料価格の推移



原料ポジションとは

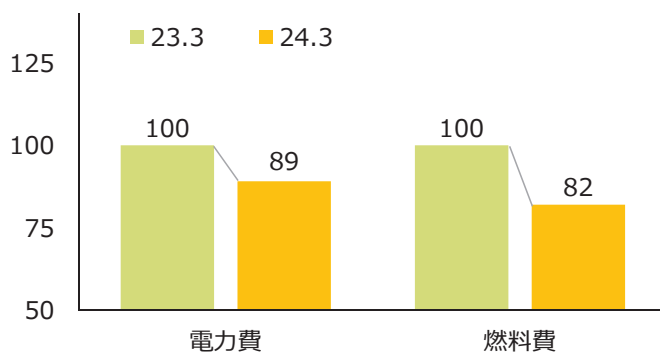
- ◇ 原材料価格は、穀物相場や為替、海上運賃等により変動
- ◇ 配合飼料価格は四半期毎に改定
- ◇ 原材料価格と配合飼料価格の変動幅にギャップが発生
⇒ 原料ポジションが改善・悪化

24.3期 の原料ポジション

- ◇ 前期比で大幅に改善
 - 原材料価格の下落幅が値下げ幅を上回り、原料ポジションは改善
 - 特に4Qは価格改定後に、主原料相場が下落し、改善

利益が38.0億円増加

㊤ 電力費及び燃料費 価格単価の推移



※ 23.3期の単価を100とした指数

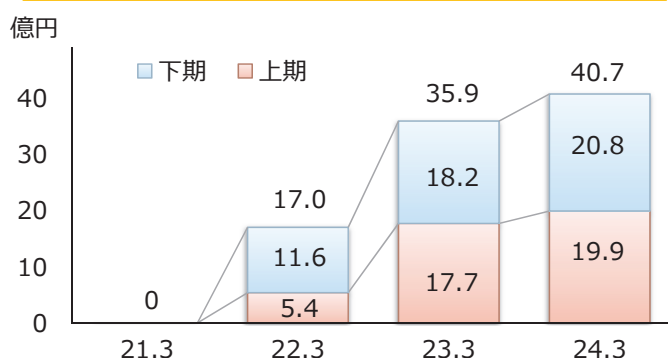
- ◇ 電力費、燃料費とも下落したためエネルギーコストは前期を下回る



- ◇ 物価上昇により運賃を中心としたその他の変動費が上昇

変動費が0.3億円減少

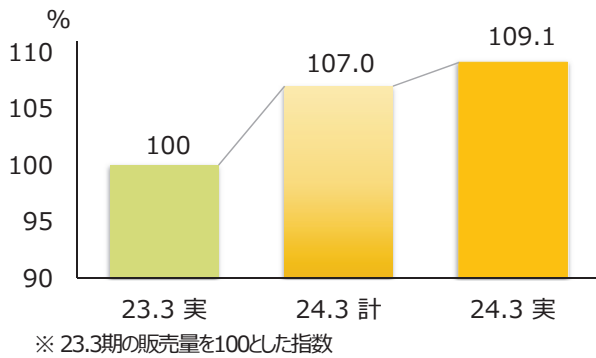
㊤ 基金負担金の推移



- ◇ 高額な補てん金が連続で発動したため3期連続で積立金単価が上昇

費用が4.8億円増加

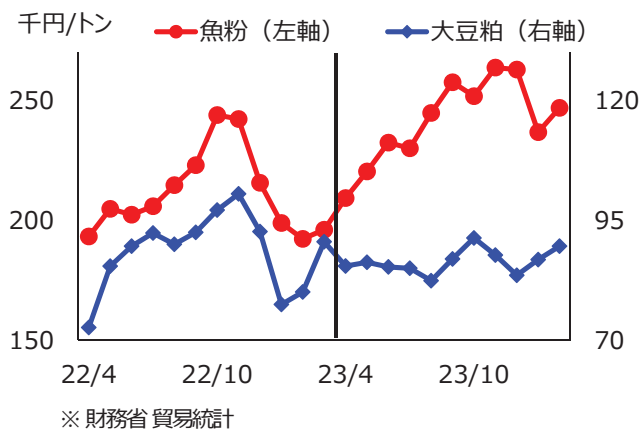
④水産飼料販売量



◇ 前期、計画ともに大幅超過

- ハマチ用飼料での取組が評価され、大幅に拡販
- 環境に配慮した低・無魚粉飼料の拡販

魚粉及び大豆粕価格の推移



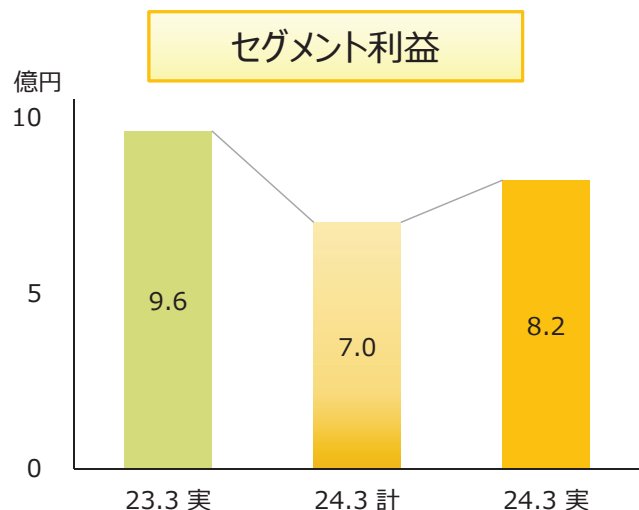
◇ 主原料である魚粉の価格は上昇、

魚粉の代替原料となる大豆粕は横ばい

- 値上げによる価格転嫁を実施
- 配合割合の工夫により、品質を維持しながらコストを抑制した新製品を投入

利益が5.0億円増加
 (前期赤字から脱却)

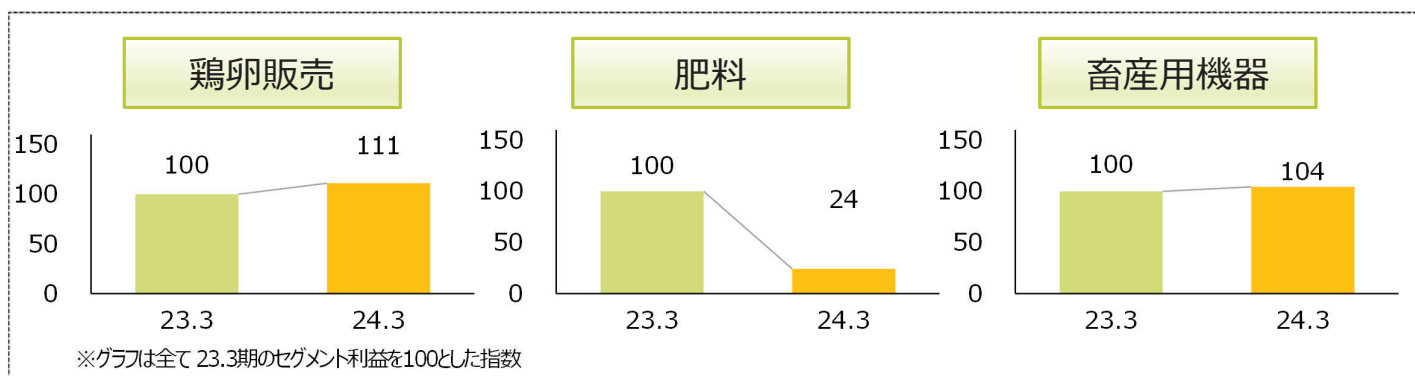
その他セグメントの状況



※24.3計は、2024年1月31日修正発表した数値

◇ 前期を下回るも、計画を上回る

- 鶏卵販売は、外食・業務用の販売量回復に助けられ堅調に推移
- 肥料は、生産者の需要変化に対応できず大幅に販売量が減少
- 畜産用機器は、販売台数は減少したものの、利益率改善



※グラフは全て 23.3期のセグメント利益を100とした指数

中期経営計画2024 (2025年3月期～2027年3月期)

1. 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について
2. 中期経営計画2024の目的・位置づけ
3. 中期経営計画2024の内容と計画値
4. 株主還元方針

1. 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

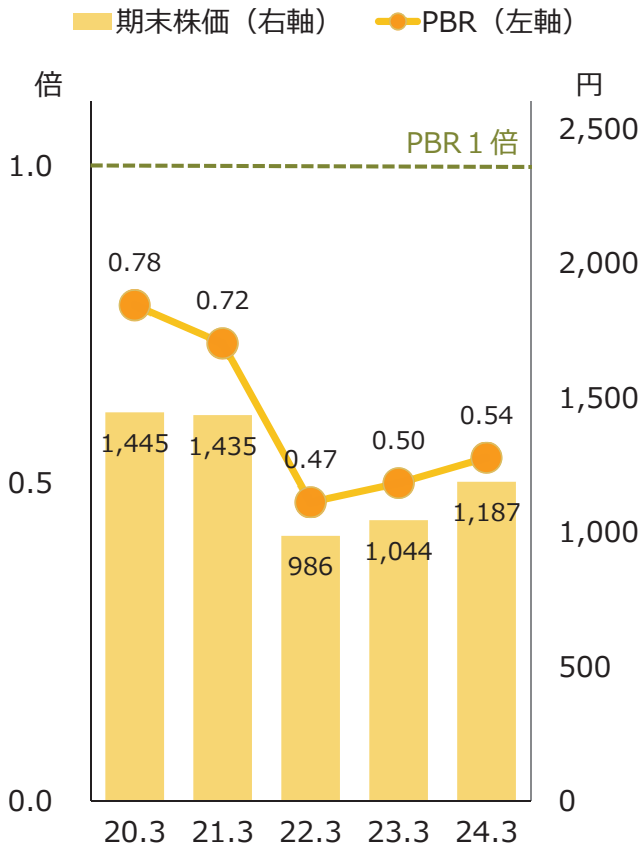
現状評価①

当社の資本コストの推定値

- ◇ CAPMの手法を用いて算定した株主資本コスト : 7%程度
- ◇ 投下資本の調達コストの加重平均資本コスト (WACC) : 6%程度

	20.3期	21.3期	22.3期	23.3期	24.3期
PBR (倍)	0.78	0.72	0.47	0.50	0.54
期末株価	1,445円	1,435円	986円	1,044円	1,187円
1株当たり純資産	1,851円	1,986円	2,081円	2,071円	2,218円
ROE	8.7%	6.6%	5.3%	1.3%	5.3%
ROIC	6.8%	5.7%	4.2%	2.0%	3.8%
純利益 (百万円)	4,732	3,782	3,211	827	3,327
自己資本 (百万円)	55,558	59,611	61,938	61,180	65,568
自己資本比率	67.7%	67.8%	70.4%	62.7%	63.2%
配当性向	16.6%	22.2%	29.9%	121.4%	35.5%
DOE	1.4%	1.5%	1.6%	1.6%	1.9%

PBR (株価純資産倍率)

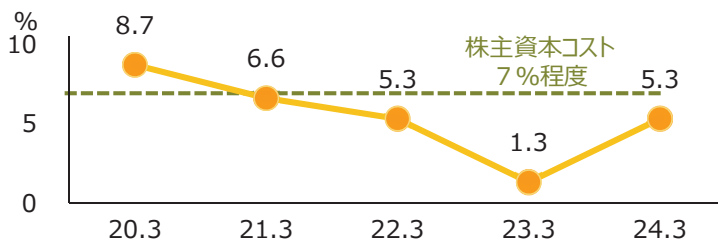


- ◇ PBRは1倍割れの状態が続く
- ◇ 直近3か年は0.5%前後と低位で推移

当社が認識している要因

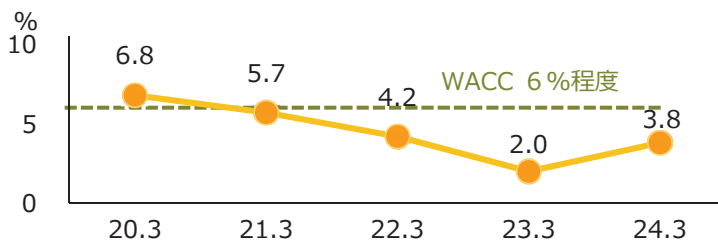
- ◇ 資本コストを上回る利益を確保できていない
- ◇ 資本効率性が悪化している
 - 自己資本の増加に純利益の伸びが追い付いていない
- ◇ 株主還元が十分でない
- ◇ 事業・成長戦略が株主の理解を十分に得られていない
 - 株主に対して、持続的な成長戦略・成長ストーリーを示せておらず、利益成長を実現できていない

ROE (自己資本利益率)



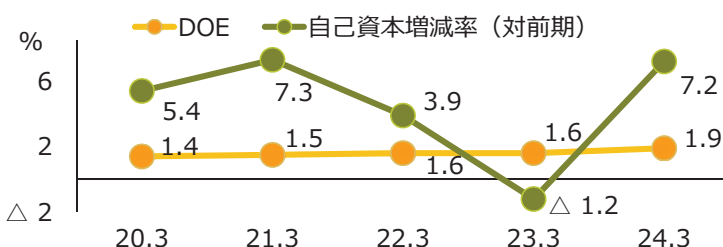
- ◇ 株主価値の観点から、ROEが株主資本コストを下回っている

ROIC (投下資本利益率)



- ◇ 企業価値の観点から、ROICがWACCを下回っている

DOE (純資産配当率)

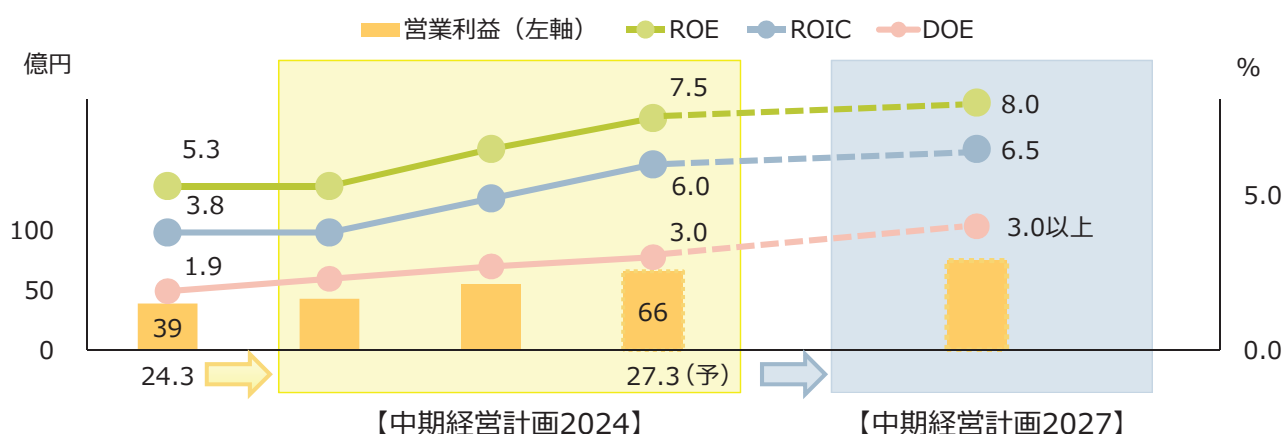


- ◇ 安定配当を維持しているものの、自己資本の積み上がりに比して、DOEは、1%台で推移

方針

- ◇ 株主や投資家の皆様から当社の事業・成長戦略を適切に評価していただく
- ◇ 資本コストを意識しながら、以下により、
ROE 8%、ROIC 6.5%、DOE 3%を安定的に上回ることを目指し、PBR向上を図る
 1. 収益性の向上
 2. 株主還元の見直し
 3. 最適資本構成の実現
 4. サステナビリティ経営の推進
 5. IR活動の充実
- ◇ 進捗状況について、毎年検証を行い開示する

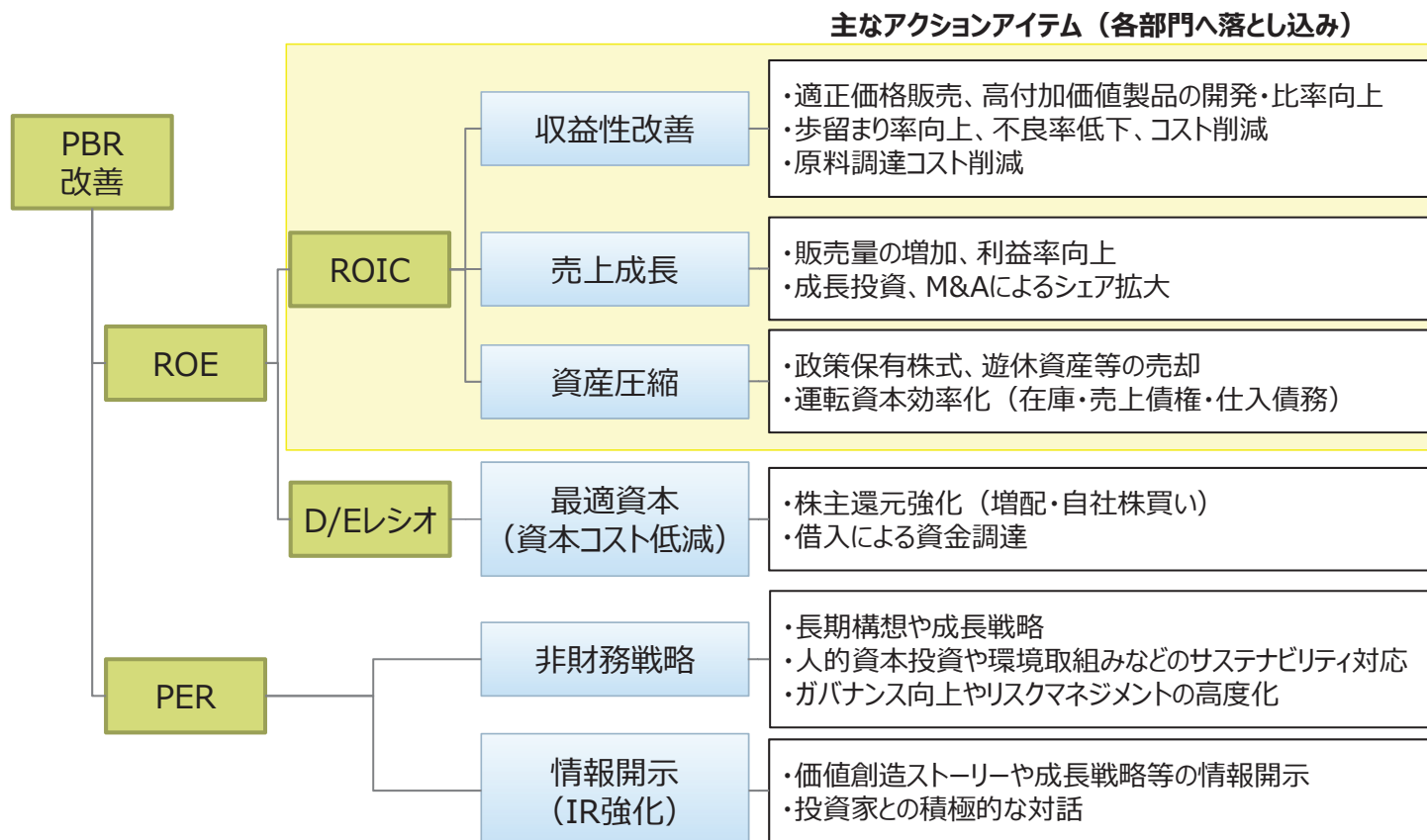
目標



具体的な取組み

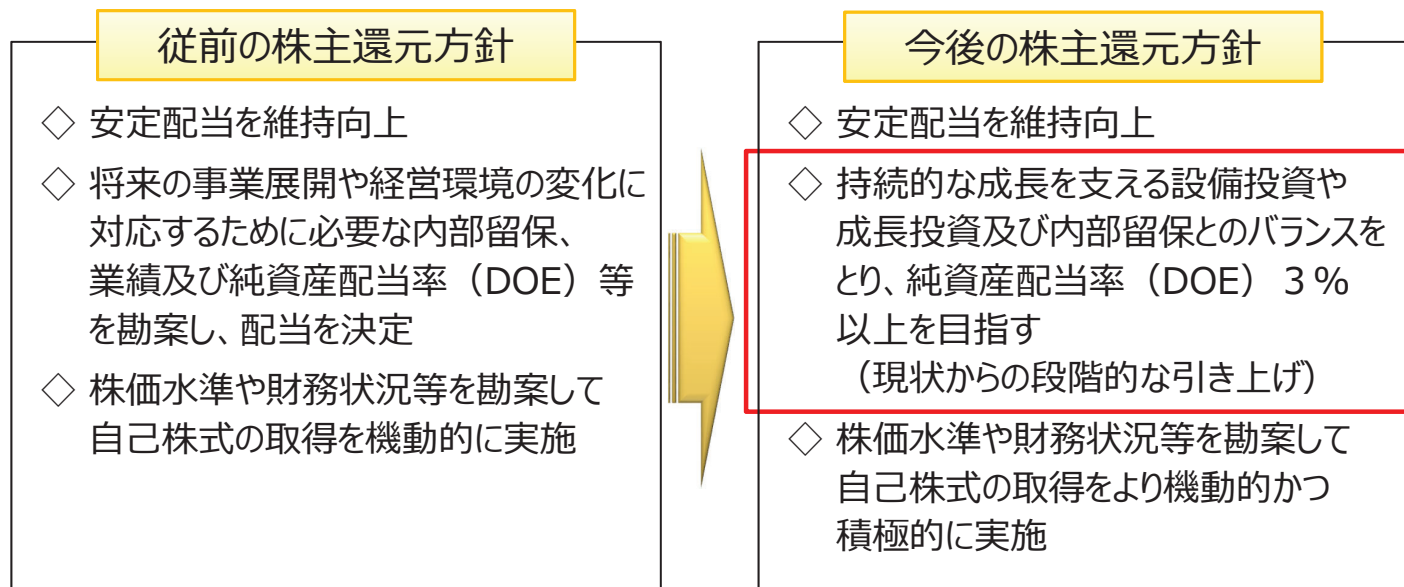
1. 収益力の向上	◇ ROICを社内指標とした経営管理
2. 株主還元の見直し	◇ 目標配当水準を純資産配当率 (DOE) 3%以上 ◇ 自己株式取得をより機動的かつ積極的に実施
3. 最適資本構成の実現	◇ 適切な資本/負債バランスを実現 (最適DEレシオを目指す) ◇ 政策保有株式の売却、遊休資産の売却
4. サステナビリティ経営の推進	◇ 人的資本投資の推進 ◇ 温室効果ガス排出量の削減取組みの継続 ◇ ガバナンス強化
5. IR活動の充実	◇ 投資家等との積極的な対話 ◇ 株主や投資家、従業員への開示・発信の充実

ROICツリーを活用し収益性の向上を図る ⇒ 各部門へ落とし込み、取組みを実行



25

補足資料② 株主還元の見直し



【中期経営計画2024】

	22.3期 実績	23.3期 実績	24.3期 見込	25.3期 計画	26.3期 計画	27.3期 計画
DOE	1.6%	1.6%	1.9%	2.3%以上	2.7%以上	3.0%以上

26

資本コストを意識した経営を進め、事業戦略を遂行するために

1. 最適資本構成に関する方針 2. キャッシュフローアロケーションの方針 が
 一体となった財務戦略の枠組みを設定



<p>1. 最適資本構成に関する方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 財務規律に基づき適切な資本/負債バランスを実現 ◇ 有利子負債の最大調達額を設定し財務レバレッジを活用した資本コスト削減をはかる
<p>2. キャッシュフローアロケーションの方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 営業キャッシュフロー、政策保有株式等の売却、有利子負債の調達を財源とする ◇ 配分は、設備投資・成長投資と株主還元の両立を目指す（成長投資は人的資本への投資、研究開発等を含む）

2. 中期経営計画2024の目的・位置づけ

中期経営計画2024（2025.3期～2027.3期）

【経営ビジョン】

社是：特性ある仕事をして社会に貢献する

特性ある畜水産物づくりと
 お客様の生産性向上に寄与し
 お客様とともに成長する

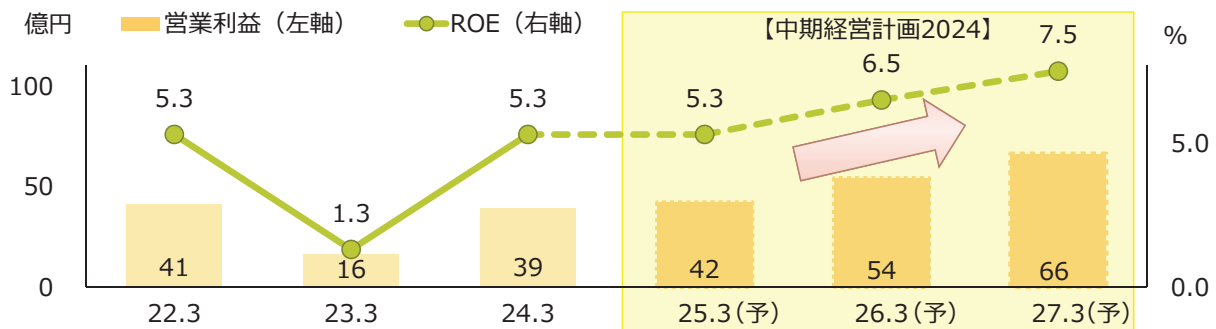


畜水産業界の持続的成長に貢献

豊かな食生活に貢献

位置づけ

回復基調を確実なものとし、より強い収益基盤を再構築 → 持続的な成長を実現



3. 中期経営計画2024の計画値と内容

(単位：百万円)

	24.3 実	25.3 計	26.3 計	27.3 計
営業利益	3,932	4,200	5,400	6,600
経常利益	4,464	4,600	5,800	7,000
セグメント利益	4,487	4,900	6,100	7,300
飼料	4,301	4,350	5,500	6,650
その他	821	900	950	1,000
調整額	△ 635	△ 350	△ 350	△ 350
当期純利益	3,327	3,400	4,300	5,100

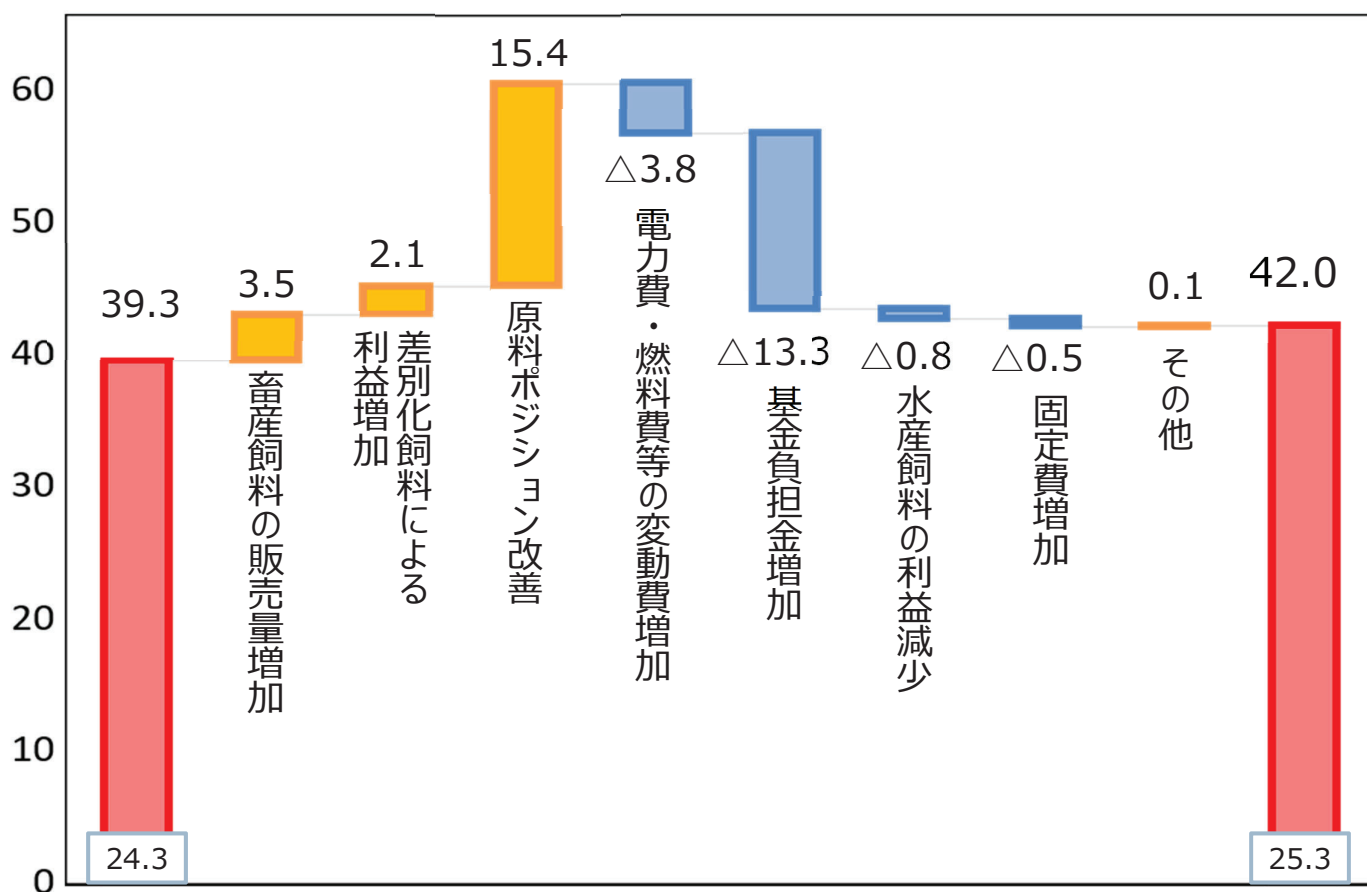
ROE	5.3%	5.3%	6.5%	7.5%
DOE	1.9%	2.3%	2.7%	3.0%

設備投資額	4,098	4,000	4,000	4,000
減価償却費	2,935	3,000	3,100	3,300
基金負担金	4,072	5,400	5,500	5,700

31

中期経営計画2024 初年度（25.3期）営業利益の増減要因

億円



32

【基本方針】

中長期的な企業価値の向上とさらなる成長を実現するため、
 収益力向上と規模拡大により強い収益基盤を構築する



資本コストを意識した経営を実践する

【基本戦略】

1. 飼料セグメントの収益力向上と規模拡大（畜産飼料・水産飼料）
2. その他セグメントの事業成長の加速（鶏卵販売・肥料・畜産用機器・保険代理業等）
3. 収益基盤を支えるサステナビリティ経営の推進

33

基本戦略 1：飼料セグメントの収益力向上と規模拡大

畜産飼料

- ◇ 製販研一体取組みの推進
- ◇ 環境に配慮した飼料の開発・販売
- ◇ 差別化飼料の拡販
- ◇ 原価低減、生産性の向上

水産飼料

- ◇ 低・無魚粉飼料の拡販
- ◇ 試験漁場を持つ強みを生かし
新製品の開発を加速
- ◇ 高付加価値水産物の販売強化

- ◇ 営業・研究人員の増員・育成
- ◇ ROICのツリーを活用（各部門へ落とし込み）

【計画数値】

	24.3期 実績	(中計最終年度) 27.3期 計画
畜産飼料販売量	300万トン	320万トン
差別化飼料の売上高構成比（畜産）	45.1%	50.0%
環境に配慮した飼料販売量（畜産）	100（指数）	150（指数）
水産飼料販売量	37千トン	40千トン
環境に配慮した飼料販売量（水産）	100（指数）	200（指数）

34

鶏卵販売

- ◇ 安定供給のための取組み継続
- ◇ 特殊卵「ごまたまご」「平飼いシリーズ」の販売強化、新特殊卵の開発・販売
- ◇ 人材育成による組織力の強化

肥料

- ◇ 新規顧客開拓
- ◇ 堆肥入り配合肥料の開発・拡販
- ◇ 関東の製造拠点の増産

畜産用機器（子会社：中部エコテック）

- ◇ 畜産用機器の新規・追加設置の獲得、買換需要の掘り起こしを推進
- ◇ 中国、東南アジア等への販売強化
- ◇ 下水汚泥処理用機器の新規拡販

保険代理業（子会社：ダイコク）

- ◇ 畜産保険の販売を通じて生産者へ貢献
 - 疾病・災害等へのリスクヘッジ機能を訴求した販売強化
 - 飼料事業へのシナジー効果

【計画数値】

	24.3期 実績	(中計最終年度) 27.3期 計画
その他セグメント利益（合計）	8.2億円	10.0億円

Environment（環境）の主な取組

- ◇ 温室効果ガス排出量の削減
 - 2030年までに温室効果ガス排出量を2020年度に比べて、30%削減することを目指す
- ⇒ 22年度実績▲0.7%（20年度比）

Social（社会）の主な取組

- ◇ 働きやすく働きがいのある職場づくり
 - 安全な職場環境の実現
 - 働き方改革に対応する制度構築
- ◇ 人的資本へ積極的に投資
 - ① ESの向上
 - ・ 継続的な処遇改善や社員エンゲージメントの向上
 - ② 人材採用・育成
 - ・ 積極的な採用、多様性をはぐくむことのできる人材育成の実行
 - ③ 働き方の変革対応
 - ・ 柔軟な働き方の実現

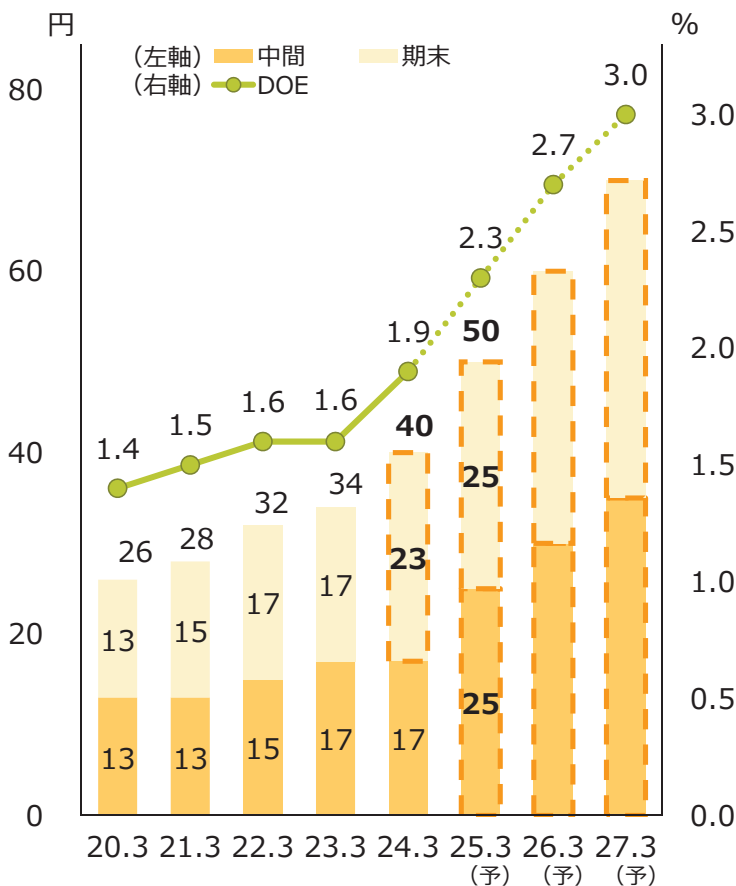
Governance（ガバナンス）の主な取組

- ◇ 取締役会の実効性向上
- ◇ リスクマネジメントの実効性向上
 - リスク管理委員会活動の推進

4. 株主還元方針

株主還元方針

1 株当たり配当金及びDOEの推移



- ◇ 24.3期 期末は23円/株を予定
- ◇ 25.3期は中間・期末ともに25円/株とし、年50円/株を予定

還元方針

- ◇ 安定配当を維持向上
- ◇ 持続的な成長を支える成長投資や設備投資、内部留保とのバランスをとり、純資産配当率（DOE）3%以上を目指す
⇒ 現状からの段階的な引き上げ
- ◇ 株価水準や財務状況等を勘案して自己株式の取得をより機動的かつ積極的に実施

参考資料

用語集

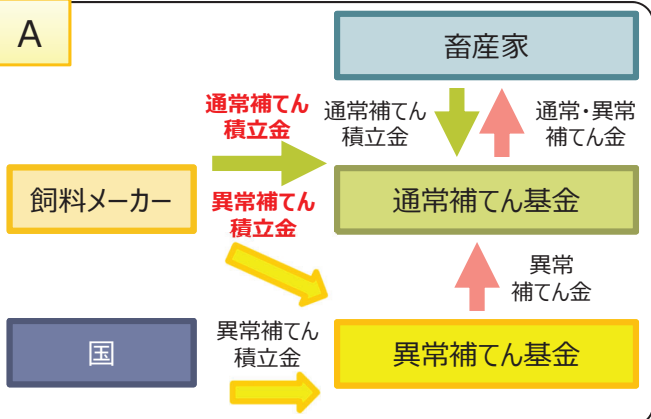
Q 差別化飼料とは？

A ◇ お客様との取組みの中で開発
 ◇ お客様の生産性向上や特性ある畜産物の生産に貢献する高付加価値製品

Q 環境に配慮した飼料とは？

A ◇ 環境負荷の軽減、動物の飼育環境の改善、海洋資源の保護等につながる飼料
 ◇ 具体的には、従来の飼料と比べて、鶏糞や豚糞の発生量を低減する飼料や、魚粉を使わない水産飼料などがある

Q 基金負担金とは？



目的 ◇ 飼料価格上昇による畜産経営の影響を緩和

内容 ◇ 畜産家・飼料メーカー・国が積立
 ◇ 一定のルールに基づき、畜産家へ補てん金を交付
 ◇ 積立金は財源により増減



本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。